

有効成分および使用方法

■農林水産省登録:第22132号 ■農薬の種類:イミダクロプリド粒剤 ■登録薬剤名:アドマイヤー® CR箱粒剤

有効成分の種類および性状

|    |                                          |    |       |
|----|------------------------------------------|----|-------|
| 成分 | イミダクロプリド・・・1.95% <small>殺虫剤分類 4A</small> | 性状 | 類白色細粒 |
|----|------------------------------------------|----|-------|

安全性（製剤）

■人畜毒性：普通物 （毒劇物に該当しないものを指している通称）

|              |                             |
|--------------|-----------------------------|
| 急性経口（ラット♀）   | LD <sub>50</sub> >2,000mg/ℓ |
| 急性経皮（ラット♂♀）  | LD <sub>50</sub> >2,000mg/ℓ |
| 皮膚刺激性（ウサギ）   | 刺激性なし                       |
| 眼刺激性（ウサギ）    | 刺激性なし                       |
| 皮膚感作性（モルモット） | 感作性なし                       |

■水産動植物への影響

|                      |                             |            |
|----------------------|-----------------------------|------------|
| 魚類急性毒性（コイ）           | LC <sub>50</sub> （96時間）     | >1,000mg/ℓ |
| ミジンコ類急性遊泳阻害（オオミジンコ）  | EC <sub>50</sub> （48時間）     | >1,000mg/ℓ |
| ユスリカ幼虫急性遊泳阻害（ドブユスリカ） | EC <sub>50</sub> （48時間）     | 1.01mg/ℓ*  |
| 藻類生長阻害（緑藻）           | ErC <sub>50</sub> （24～72時間） | >1,000mg/ℓ |

\* 原体の毒性値に基づく換算値

適用害虫および使用方法

2022年1月現在の登録内容

| 作物名        | 適用害虫名      | 使用量                                                                   | 使用時期                  | 使用回数※                                                   | 使用方法               |
|------------|------------|-----------------------------------------------------------------------|-----------------------|---------------------------------------------------------|--------------------|
| 稲<br>(箱育苗) | イネクロカメムシ   | 育苗箱<br>(30×60×3cm、<br>使用土壌約5ℓ)<br>1箱当り50g                             | 移植当日                  | 本剤：1回<br><br>イミダクロプリド：3回<br>(移植時までの処理は1回、<br>本田での散布は2回) | 育苗箱の上から<br>均一に散布する |
|            | イネアザミウマ    |                                                                       | 移植2日前～移植当日            |                                                         |                    |
|            | ウンカ類       |                                                                       | は種時(覆土前)<br>～<br>移植当日 |                                                         |                    |
|            | イネドロオイムシ   |                                                                       |                       |                                                         |                    |
|            | イネミズゾウムシ   |                                                                       |                       |                                                         |                    |
|            | ツマグロヨコバイ   |                                                                       |                       |                                                         |                    |
|            | イネヒメハモグリバエ |                                                                       |                       |                                                         |                    |
|            | イネアザミウマ    | 高密度には種する場合は<br>1kg/10a<br>(育苗箱(30×60×3cm、<br>使用土壌約5ℓ)<br>1箱当り50～100g) | 移植2日前～移植当日            |                                                         |                    |
|            | イネクロカメムシ   | 移植当日                                                                  |                       |                                                         |                    |

※収穫物への残留回避のため、本剤およびその有効成分を含む農薬の総使用回数の制限を示します。

注意事項

- 育苗箱（30×60×3cm、使用土壌約5ℓ）1箱当りに乾粒として200から300g程度を高密度には種する場合は、10a当りの育苗箱数に応じて、本剤の使用量が1kg/10aまでとなるよう、育苗箱1箱当りの薬量を50から100gまでの範囲で調整して下さい。
  - 軟弱徒長苗、むれ苗、移植適期を過ぎた苗などには薬害を生じるおそれがあるので注意して下さい。
  - 本田の整地が不均整な場合は、薬害を生じやすいので、代かきは丁寧に、移植後田面が露出しないように注意して下さい。
  - 梅雨明け後の高温時の晩期栽培では、は種時の処理により薬害が生じるおそれがあるので、は種時の使用をさせて下さい。
  - 本剤の使用に当っては使用量、使用時期、使用方法を誤らないように注意し、特に初めて使用する場合には病害虫防除所等関係機関の指導を受けることが望ましいです。
  - 誤食などのないように注意して下さい。
  - 水産動植物（甲殻類）に影響を及ぼすので、河川、養殖池等に流入しないよう水管理に注意して下さい。
  - 散布器具および容器の洗浄水は、河川等に流さないで下さい。また、空容器、空袋等は水産動植物に影響を与えないよう適切に処理して下さい。
  - 直射日光をさけ、食品と区別して、なるべく低温で乾燥した場所に密封して保管して下さい。
- ★播種同時施薬機や田植同時施薬機で使用する場合は、農機販売会社の本剤の使用に関して確認をして下さい。また、散布量の調整を実施したうえで使用して下さい。



バイエル クロップサイエンス株式会社  
東京都千代田区丸の内1-6-5 〒100-8262  
<https://cropscience.bayer.jp/>  
お客様相談室 ☎0120-575-078  
9:00～12:00,13:00～17:00 土日祝日および会社休日を除く

- 使用前にはラベルをよく読んで下さい。
- ラベルの記載以外には使用しないで下さい。
- 本剤は小児の手の届く所には置かないで下さい。

L3-1015 22.01.NY

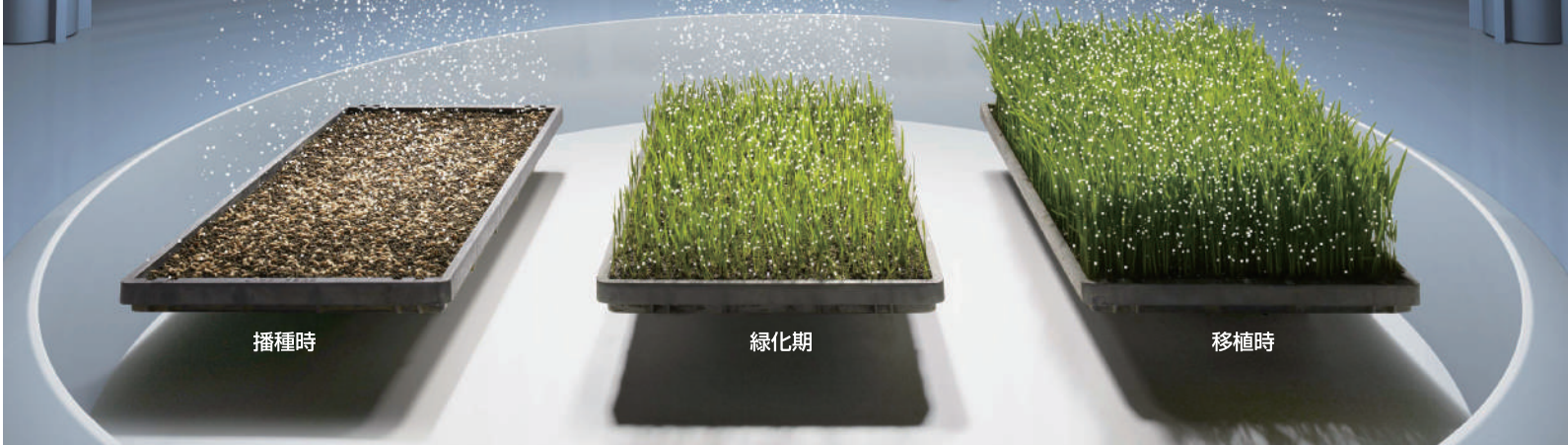
技術資料

ハイテクノロジーが、  
ロングセラーを  
新しくした。



アドマイヤー® CR  
箱粒剤

育苗箱専用殺虫剤  
播種時から、使える。



製品情報の詳細は  
こちらから



高密度播種  
箱当り：50～100g  
（1kg/10aまで）

慣行播種  
箱当り  
50g

®アドマイヤーはバイエルグループの登録商標



## 効果試験

# 播種時から移植時まで、 いつでもまける広い処理適期幅を実現。 コントロール・リリースで、 いつでも使えて、しっかり守る。

アドマイヤー®CR箱粒剤は、バイエルクロップサイエンス社が開発したネオニコチノイド系殺虫剤のイミダクロプリドを含む水稲用箱粒剤です。本剤は、「BCI-053粒剤」の試験コード名で、平成17年度より日本植物防疫協会を通じた公的試験が実施され、水稲の主要害虫であるイネドロオイムシ、イネミズゾウムシ、ウンカ類、ツマグロヨコバイに対し優れた効果を示すことが確認されました。本資料は、今までに得られた技術的知見を基に、アドマイヤー®CR箱粒剤の特長、作用性、試験成績などを取りまとめたものです。本資料を今後の試験等にご活用いただければ幸いです。

### ■アドマイヤー®CR箱粒剤の特長

◎新製法「CR（コントロール・リリース）」により、有効成分の放出に工夫がされており、播種時から移植当日まで使用可能です。

◎使用時期が幅広いため、使い易い薬剤です。

◎イネドロオイムシ、イネミズゾウムシ、ウンカ類に対し高い防除効果を示します。  
本剤は、稲の主要害虫であるイネドロオイムシ、イネミズゾウムシ、ウンカ類、ツマグロヨコバイに対し、高い防除効果を示します。

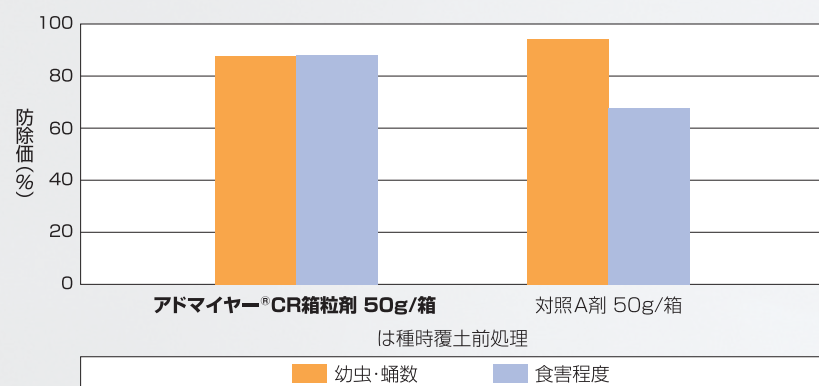
◎高密度播種の場合、10a当りの育苗箱枚数にあわせて育苗箱当りの使用量を50～100g/箱で処理でき、安定した防除効果が期待できます。  
※ただし、10a当りの処理量は最大1kg/10aです。



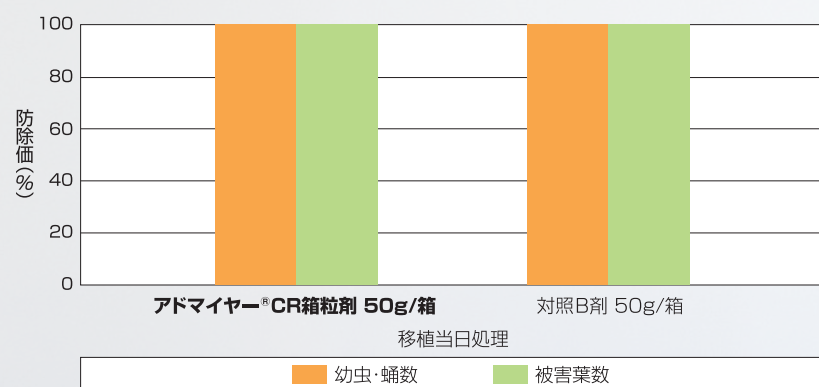
### ■新農薬実用化試験成績

#### イネドロオイムシに対する効果

北海道立上川農業試験場（平成18年）  
品 種：ほしのゆめ  
処理月日：平成18年4月18日  
移植月日：平成18年5月23日  
発生状況：少発生  
調査方法：移植48日後に50株/区について幼虫・蛹数および食害程度を調査した。

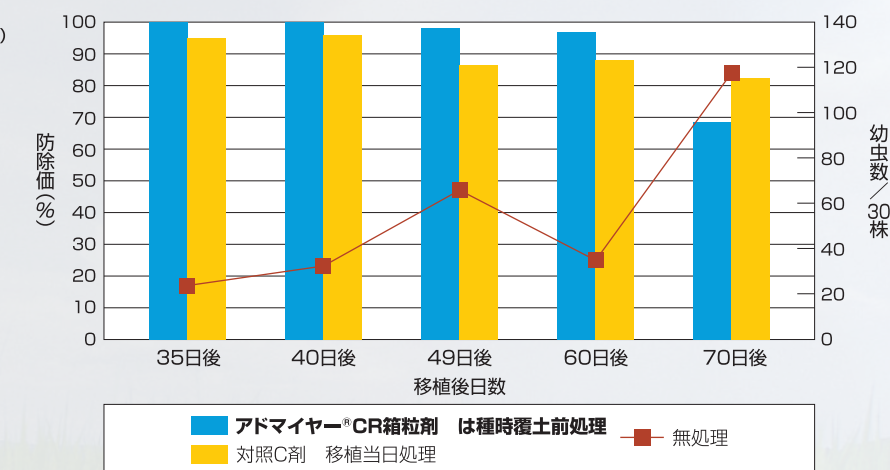


北海道立中央農業試験場（平成18年）  
品 種：ほしのゆめ  
処理月日：平成18年5月25日  
移植月日：平成18年5月25日  
発生状況：少発生  
調査方法：移植46日後に100株/区について幼虫・蛹数および被害葉数を調査した。



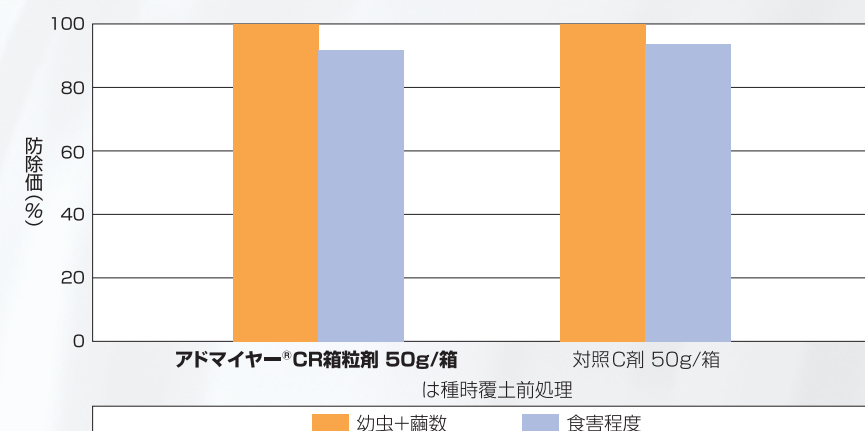
#### ツマグロヨコバイに対する効果

日本植物防疫協会高知試験場（平成18年）  
品 種：フクヒカリ  
処理月日：平成18年6月9日  
移植月日：平成18年6月26日  
発生状況：中発生  
調査方法：指定された日に、30株/区について、寄生するツマグロヨコバイ虫数を調査

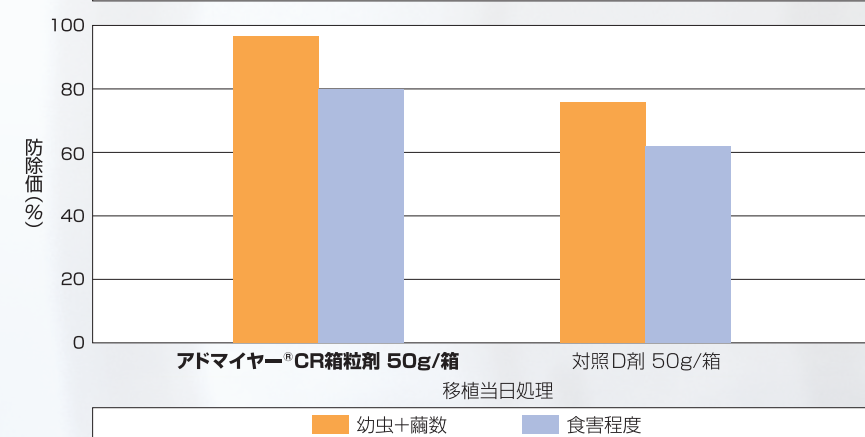


#### イネミズゾウムシに対する効果

長野県農事試験場（平成18年）  
品 種：信交507号  
処理月日：平成18年4月21日  
移植月日：平成18年5月25日  
発生状況：少発生  
調査方法：移植27日後に150株/区について食害度を、移植42日後に9株/区について寄生幼虫・土壌数を調査



(社)岩手県植物防疫協会（平成18年）  
品 種：あきたこまち  
処理月日：平成18年5月23日  
移植月日：平成18年5月23日  
発生状況：中発生  
調査方法：移植23日後に25株/区について食害度を、移植65日後に10株/区について寄生幼虫・土壌数を調査



#### ヒメトビウンカに対する効果

岐阜県農業技術センター（平成18年）  
品 種：ハツシモ  
処理月日：平成18年5月2日  
移植月日：平成18年5月25日  
発生状況：多発生  
調査方法：移植42および49日後に30株/区について払い落としにより幼虫数を調査した。

